

講義、実習：失語症のある人の日常生活とニーズ、意思疎通支援者の心構えと倫理
コミュニケーション支援実習②（コミュニケーション支援技法⑤書いて示す技術の講義含む）

責任者：平山・蓼田

講師：坊岡・三上

呉市 つばき会館 8月6日（日）10:00～16:00

担当者：小山・松原・板倉・沖田

支援ST：本多・西・田積・後河内・北川・木村・細川・原田・今田

目的：失語症者の生活の困難さをイメージできる、支援技術（語の階層性、属性、確認、書く技術）に留意しながら、情報伝達ができる

事前準備	●参加コアST、支援STを確認 ●当日のスケジュール、役割分担票を提案 ●内容確認 ●模擬失語症者と受講生の組み合わせを調整
------	---

当日		時間	担当者	内容
AM	集合	9:00	コアスタッフ 支援ST全員	会場設営 コアスタッフ、支援STに当日のスケジュール・目的について説明 模擬失語症者（コア・支援ST）と受講者の組み合わせ調整・確認
	受付開始	9:30		出欠確認、健康チェック(松原・板倉) 写真係（小山・松原）
	スケジュール確認、講師紹介	10:00～10:05	司会 平山	
	講義 失語症のある人の日常生活とニーズ	10:05～11:05	坊岡	
	休憩10分			
	講義 意思疎通支援者の心構えと倫理	11:15～11:45	三上	誓約書に署名
	昼休憩45分	11:45～12:30		課題①の資料をPPで流す。休憩中に要点筆記をしてもらう。
	講義と実習 コミュニケーション支援技法⑤ 課題1	12:30～13:30 +10分（課題用）	司会:蓼田 講師平山	コミュニケーション支援技法⑤：話しの要点を書示する講義（平山） →お知らせ文をわかりやすく伝達する実習（課題1）後半10分（蓼田）
	休憩10分			
	実習 PACE:受講生が失語症役	13:50～14:00	司会 蓼田	実習内容の説明
	PACE:居住地、趣味、学生の頃に興味を持っていたこと、好きな食べ物等 コロナ緩和されやってみたいこと等	14:00～14:40	各担当ST	前半：模擬失語症者の居住地、趣味（好きなこと）、学生時代のクラブ活動・興味を持っていたことを尋ねる→おおむね10分+自己振り返りを記入5分+5分（振り返り） 後半：内容は同じで役割交代を行う→概ね10分+自己振り返り5分+5分（振り返り） →唐突に聞くのではなく、自己紹介、自由会話もできるだけ行う
	休憩10分			
	課題2：支援STが失語症役 行ってみたいところ、好きなこと	14:50～15:15	司会:蓼田・平山	説明（5分） 受講生同士が役割（主に支援者役・調べたり補助役）を決めて失語症の方の意思疎通支援を行う。（20分）
	受講生同士の話し合い（10分） STからのフィードバック（10分）	15:15～15:35		受講生同士で以下の点を中心に話し合う ・「失語症者の理解を促す点で出来たこと、難しかったこと」 ・「失語症者の思いを引き出す、確認する点で出来たこと、難しかったこと」 グループごとに担当のSTがフィードバックする ・課題2、グループ振り返りを聞き、プラスのフィードバックを行う。
	本日のまとめ	15:35～15:50		グループ発表（促す点、伝える点グループ） 講師または責任者からの全体講評
	連絡事項	15:50～16:00		次回(8/20)の案内
終了後	反省会	16:00～16:30		

- ①講義はじめに、耳から聞いた内容（配布呉市政）を要点筆記する
②講義
③ ①で聞いた内容を再度わかりやすく要点筆記する

前半：受講生Aは失語症役を行う。受講生Bは支援者役。支援STは支援者役をフォロー。
後半：受講生Bは失語症役。受講生Aは支援者失語症者役はyes-noでしか答えられない。発話は「はい、いいえ、わからない」のみ

課題 1 内容：提示された資料を見て、失語症者にわかりやすいように書き示す
目標：「**話の要点を書字する**」講義内容を習得する
方法：お知らせ文を事前に（朝）お渡しし、昼休憩時にPPに提示した内容（同じ文）を失語症者の人にわかりやすいと思う方法で書き示す
講義開始時に、簡略化した同様文を聴いて要約筆記した内容に補足する。
その後、 講義後に再度、同じお知らせ文を1回聞き、要点筆記を行う。模擬要点筆記を提示

内容：失語症者体験を行う（PACE）
目標：失語症者になって伝えたいことがすぐに伝えられないもどかしさを知る。支援者として属性・階層性 etc を利用し**理解面・表出面を支援**。
方法：受講生同士が失語症者-支援者と役割交代をし、居住地・趣味・学生の頃の部活・興味を持っていたことを聞き出す。失語症者役はYES-Noでしか答えられない。

課題 2 内容：模擬失語症者の「好きなこと」「行きたいところ」を尋ねる。行きたいところが分かればどのように行くかを考え、失語症者に伝達する

目標：語の選択方法、属性、階層性、確認する技術を駆使し**表出面を支援**する。
理解面を支援するために、わかりやすく口頭or書字で模擬失語症者に伝達する。
受講生同士の交流の中で、積極性を確認する（マッチングなどの判断材料）

方法：①模擬失語症者ST 1名+受講者2名（20分）
受講生A：模擬失語症者の「好きなこと」「行きたいところ」を尋ねる
受講生B：ヒントを基に選択肢を見つけ出す（スマホ・描画等）
→階層性、属性などを考え、選択肢などを使用し、書いて表出面の支援が出来るかを確認する。
②受講生同士、失語症者の「理解を促す」「思いを引き出す」点でできたこと難しかったことを話し合う(10分) STは話を聞くだけ
③チェックシートを使用しながら、支援STとの振り返りを行う（10分）
全体振り返り：模擬失語症者の言葉を引き出すこと、伝えることの難しさ発表してもらう。その後、講師もしくは責任者に講評していただく。（できれば坊岡先生）

模擬失語症者(支援ST)の設定（事前に各自でイメージを確認しておく）→**2回目の研修とおおむね同じ設定**

支援ST用スケジュール

失語症のレベル：軽度～中等度

理解：日常会話の理解は概ね可能。文字やジェスチャーなどがあると理解しやすい。複雑な内容は確認が必要。

表出：2～3文節での表出が可能であるが、目標語の喚語困難により、キーワードの表出が難しい。1～2文字程度書けるが、受講生が類推する必要はある。
ジェスチャーは可能。

移動手段：麻痺は無し、独歩。公共交通手段での移動に限る。電車、バス、新幹線などは支援STがアドリブで考えていただいて結構です。
行程の理解が容易であれば、大体の金額、かかる時間、目的地周辺のおすすめなどを知っていればなどをアドリブで聞いてよい。